

# 第2回知多市立地適正化計画策定委員会 議事録

開催日時：令和2年2月10日（月） 午後1時30分～2時30分

開催場所：知多市役所3階協議会室

出席者（委員）：13名

（事務局）：7名

## 議事内容

1. 開会
2. 議題
  - (1) 第1回策定委員会の意見への対応について
  - (2) 立地適正化に関する基本的な方針について
3. その他
4. 閉会

## 2. 議題

### 【議題1 第1回策定委員会の意見への対応について】

意見、質疑はなし。

### 【議題2 立地適正化に関する基本的な方針について】

委員： 当面は、人口密度の大きな低下は見込まれにくく、一部の地区を除き、人口密度は維持される見通しと書いているが、将来的にはどう考えているか。

また、検討するときに、将来の人口密度だけで検討するのではなく、生活空間も考慮して検討すべきだと思う。

事務局： 岡田地区の居住誘導区域について、都市計画マスタープランでは副次的都市拠点として位置づけられている。朝倉駅周辺は都市拠点として位置づけており、補完するかたちで岡田地区を副次的都市拠点と設定している。岡田地区は観光・交流を促進するために、人口密度を維持することを図るために、立地適正化計画で居住誘導区域を設定している。黄色で塗ったエリアは居住促進エリアであり、今後人口密度が減少していく中で、立地適正化計画の見直しを行う際に、居住誘導を無理に図らずに、コミュニティ維持を努めるエリアとして設定する可能性がある。

人口密度による検討の妥当性について、将来、人口減少が続くと、コミュニティバスや医療、商業、福祉などが運営できなくなる。それを防ぐために、立地適正化計画の策定において人口密度は1つの検討要素となっている。

委員： 持続的な都市を考える際に、理論と理屈だけではなく、いろんな組織・団体の利害関係や個人の感情的な部分もあるので、計画策定の際は、しっかりとした説明が必要だと思う。

委員： 要するに、基本的な考え方はきちんと説明することが必要である。

委員： 資料3のP2、<居住地>で人口が減少していく中、「当面は、人口密度の大きな低下は見込まれにくく」としながら、新市街地の拡大を行うことについて、市はどのように考えているのか。

P4、(公共交通軸)において、「公共交通不便地域を解消する交通手段の確保を検討します」「地域の実情に合った総合的な公共交通ネットワークの形成を図ります」との記述があるが、何か具体的な施策は考えているか。

事務局： 新市街地エリアについて、人口が減少していく見込みではあるが、世帯数は増加する傾向にある。増加していく世帯数に対応するために、新市街地の拡大を図っている。

公共交通軸について、鉄道やバス路線を補完する役割として、道路の未整備区間を整備し、公共交通で結ぶことによって、これまで公共交通で行けなかったエリアに、多くの交通手段を提供することを考えている。

委員： 公共交通について、知多バスで足りない部分はコミュニティバスで補完するということか。

事務局： 鉄道へのアクセスや、鉄道で繋がっていないエリアに、公共交通(コミュニティバス)で繋げていく。それに加えて、道路網の整備により、自動車利用の人のための利便性の向上を図っていく。

委員： 「公共交通不便地域を解消する交通手段の確保」とは、自動車のことなのか。

事務局： 20年先を見据え、自動運転などの技術の活用を期待している。

委員： 新技術の推進や応用には、財政面など課題もあるので、合わせて考えたほうがよい。

委員： 昔から渋滞緩和のために車の乗り合わせ(カープーリング)の導入が検討されており、アメリカでは導入されているところもある。今後、人口減少の中で、公共交通が不足している地域では車の乗り合わせによって切り抜けられるかもしれない。これについてはアイデア次第だと思うため、知多市に合った方法を検討するとよい。

委員： 現在、知多市において地域公共交通会議を開催している。会議で、公共交通ネットワークで既存のコミュニティバスや路線バスについて議論している。さらに運転手不足など多くの問題がある。また近い将来、さらに高齢化が進むことで、知多市では地域に入り込んで、地域が目線から今後の公共交通の運営などについて具体的に検討しており、近い将来に向けて1つの方針を出すように努力している。その次のステップは、新しい技術の検討になる。そういったことから、ここでは「地域の実情に合った総合的な公共交通ネットワークの形成を図ります」と記述した。

委員： 今の話題は人口減少が前提に考えられていることが多い。しかし、知多市では人口が増加している地域もあるため、人口減少を前提に考えずに、ある程度人口を維持または増やすような方策を考えていくのはどうか。

事務局： 立地適正化計画は人口減少を前提にした計画であるため、人口減少の視点で検討している。

委員： 知多市の総合計画の中では、人口の維持または増加を目指して検討されている。立地適正化計画は、基本的に人口減少を見込み、コンパクトなまちづくりの方向で検討されており、まちを効率的に運営していこうとするものである。その上で人口が維持されたらもっと効率的になる。

委員： 誘導施設について、医療機関の開設などにあたっては、これまで医師会のなかで議論や検討も行ってきているので、立地適正化計画で誘導施設として定めた後も、これまでとおり、医師

会を通して、話を進めてもらえると良い。

事務局： ご意見を踏まえて検討する。

委員： 資料3のP3、バス路線にズレがあると思う。拠点間を結ぶのは公共交通軸である。全国的に、駅・商業施設・病院を結ぶ路線は残す傾向にあるが、旧市街地については、まち自体が老朽化している所は運転手不足のこともあるため縮小・廃止の傾向にある。知多市においても同様の傾向となると考えられる。

しかし、P4の「公共交通軸」では「既存路線やサービス水準の維持を図る」と書いている。「既存路線」は旧市街地にあった路線を残すということになる。それについて整合性をとってほしい。

### 3. その他

事務局： 次回の策定委員会の開催時期は令和2年6月頃を予定している。

次回の内容は、今回いただいた意見の回答、誘導区域の検討を予定している。

以上